

関東建設マネジメント 地域を支える専門集団

関東甲信で建設コンサルタント事業を展開する関東建設マネジメント(KCM)。そのなる事業展開を担って本年度から「第二次中期3か年経営計画」を実施中。中でも経営資源の確保として人材マネジメントに力を入れる。本特集では、2019年1月以降に入社した5人の社員を紹介。やりがいや目標など仕事に対する思いを語ってもらった。

災害発生時の迅速な対応が私たちの使命

東京支店

T 氏
(2020年4月1日入社)



長野県内で土木業を営む家系で育ってきたので、自然にインフラを整備する仕事に就きたいという思いを持っていました。半年間の新人研修や東京支店での技術審査支援業務を経て、今年5月からは、国土交通省東京国道事務所品川出張所で主に工事監督支援業務を担当しています。特定分野の施工に深い知識を持つ建設会社と、インフラ整備という分野で幅広い知識を持つ私たちの協力によって、より良い工事を行えるところにおもしろさを感じています。一方で自分より深い知識を持っている技術者の方々とともに仕事をする事となり、まだまだ自分自身の知識量の少なさを日々痛感しています。今年開催された東京オリンピックに関する業務はとても印象深い仕事の一つでした。国道を利用する競技や催しが滞りなく開催できるように点検や清掃、街路樹の剪定(せんてい)などの手配をしました。おそらく今後の人生で二度とない仕事だったので、貴重な経験だったと実感しています。社会資本の一つである道路では通行を止めてはいけないのが大前提です。台風や震災などの発生時に、迅速に対応し人々が快適に過ごせるようにするのが、道路管理者の仕事だと認識しています。まずは1級土木施工管理技士の資格を取得して工事を一人で任せられるようになり、会社や地元を支える人材になりたいと考えています。

道路や街の見方が大きく変化

東京支店

I 氏
(2020年1月1日入社)



農業高校出身で土木や砂防について一通り学んできました。卒業後は別業種の仕事に就いていましたが、「人の役に立てる仕事をしたい」という思いから当社に入社しました。現在は国土交通省相武国道事務所日野出張所で道路許認可審査業務を担当しています。主な業務としては国道の占有や利用の申請・許可、相談対応などになります。企業の方から一般の方々まで多くの人と接する機会が多いため臨機応変な対応が常に求められます。最初は戸惑うこともありましたが、先輩方の丁寧な指導のおかげでできる業務も増えてきました。特に一人で業務を達成した時に得られる経験は何ものにも代えがたいです。また働き始めてから「管路はどのように入っているのか」というのが自然と気になるようになり、道路や街の見方が変わりました。日野出張所が管理する一般国道20号は、東京都世田谷区給田の区境から神奈川県相模原市緑区の山梨県との県境までとなり、同じ国道内で片側2車線ずつの広い道路から大型車両がすれ違うのも難しい道幅の箇所もあるなどの特徴を持ちます。こうしたバラエティーに富んだ国道での仕事に従事しているところにもおもしろさを感じています。2級土木施工管理技士の資格を取得し、会社に貢献できる人材になるのが当面の目標です。将来的には1級土木施工管理技士の資格を取得し、さまざまな仕事に挑戦していきたいと思っています。

人財マネジメントで10年後を見据える

目指すのは知識と現場の視点を持つ管理技術者

さいたま支店

S 氏
(2020年4月1日入社)



横浜環状南線栄JCT
写真提供: 横浜国道事務所



「工業高校で学んだ知識を生かしたい」と就職活動をする中でKCMを知り、恩師から後押しもあって入社を決めました。工事監督支援業務や河川巡視業務など業務の内容が幅広く、いろいろな仕事ができることも魅力の一つです。現在は国土交通省利根川上流河川事務所大根出張所で堤防の拡幅など堤防補強工事の工事監督支援業務に従事し、品質・工程・安全管理を担当しています。堤防補強では盛土工事がメインとなるため、施工管理や品質管理に加えて完成後の維持管理が特に重要になります。利根川は首都圏を支える重要な河川で、なかでも本出張所の管轄区域は利根川中流部の要とされており、こうした重要な場所での経験を生かして一置かれる技術者になりたいと思っています。工事監督支援業務だけでなく、河川巡視業務やダム管理支援業務など幅広い業務を経験して、知識と現場両方の視点を持つ管理技術者を目指しています。私の世代は会社にとって初の高卒採用でした。入社前は不安もありましたが、人事の方に相談に乗っていただいたり、ビジネスマナーから専門知識まで幅広い研修が行われたりするなど当社では新卒でも安心して働ける環境が整っています。かつての建設業界はきついというイメージがありましたが、どんどん新しい技術が開発・導入され、省力化が進んでいます。ぜひ自分の目で現場を見て判断してほしいと思います。



八ツ場ダム
写真提供: 利根川ダム統管理事務所

強みを生かしてトップレベルの技術員へ

甲府支店

O 氏
(2020年5月1日入社)



施工監督担当者としての経験を生かして国土交通省の業務に携わりたいという気持ちがあり、当社に入社しました。現在は国土交通省甲府河川国道事務所甲府出張所で主に道路許認可審査業務を受け持っています。国道への出入口の設置申請や、電線やガス管などの占有許可といった多様な案件に対応しています。以前は申請する側に身を置いていたため、現場のイメージや申請者の意図などがある程度把握できるところが自分の強みです。双方の視点を持ち、申請者の気持ちからその誠意ある対応を心がけています。将来的には1級土木施工管理技士の資格を取得し、トップレベルの技術員になっていければと考えています。国交省の業務に従事する一員としてまだまだ成長しなければなりません。「君はこの業務から外せない」と思ってもらえるように引き続き日々の業務に全力で取り組んでいきます。発注者支援業務はある程度の経験が求められるので、経験がないからという理由で悩んでいる就職活動中の学生もいると思います。私自身も中途採用ではありませんが、入社前は資格もないのにやっていたのかと不安でした。実際は手厚い研修制度もあり、さまざまな業務を経験して一人前の技術者になれる環境が整備されています。ぜひ勇気を出して一歩踏み出してみてください。

どのダムでも通用する技術を習得

高崎支店

K 氏
(2019年10月1日入社)

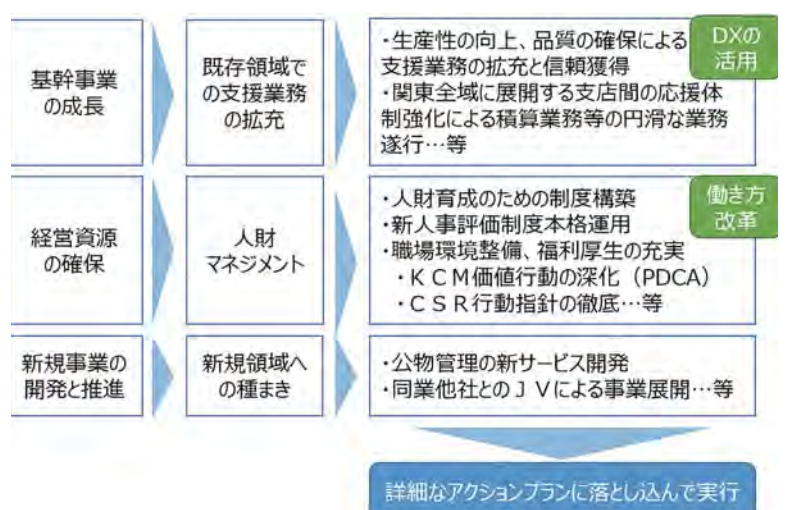


現在、群馬県にある国土交通省利根川ダム統管理事務所八ツ場ダム管理支所でダム管理支援業務に従事しています。ダム管理支援業務とは、ダムの運用管理を通じて皆さまの安心・安全な暮らしを支える仕事で、堤体の維持管理やダム湖の確認、流入流出の計測などを主に行っています。これまでに印象に残っているのは試験湛水時の点検作業で、ダムの中を隅から隅まで歩いて行う一回2時間の点検を一日に3回行いました。試験湛水とはダム完成時に堤体や放流設備などが安全に運用できるのかを段階的に水を入れて検証する作業です。試験湛水に限らず、1回目の点検を右岸から開始した場合、次は左岸から作業をするなどの工夫をして見落としがないように注力しています。またダムに一定量以上の流入があるときに下流に流す水量を調節する洪水調節も大きな責任とやりがいを感じる仕事の一つです。1分間の流入量やその日の天候などから、どのくらい水が入ってくるのかを予測して10分間隔でゲートの放流操作の準備をしています。今後は実務経験を積んでダム管理技士の資格を取得し、どこのダムに行っても通用する技術を身につけていきたいと思っています。

【KCMの企業理念】

技術とサービスをもって誠実に
事にあたり、地域社会並びに国
土の発展に貢献する

【基本方針と具体的取り組み】



第二次中期3か年経営計画
KCMは、建設コンサルタントとして、関東甲信1都8県の道路やダム、河川といった社会資本の整備・メンテナンスなどの支援事業に取り組んでいる。発注支援業務を通じて関東一円の豊かな自然と環境を守り、災害から人々の生活を守るのが仕事だ。2013年7月の設立から20年3月までに8期が経過。経営の柱として発注者支援業務の受注も順調に推移し、第6期(18年度)に初めて策定した「第一次中期3か年経営計画」の目標を達成した。持続的な成長と体質強化を実現するために、本年度から3年間の事業展開の方向性と進め方を示す「第二次中期3か年経営計画」を策定した。経営計画書の基本方針は「基幹事業の成長」「経営資源の確保」「新規事業の開発と推進」の3つの基本方針の下、それぞれアクションプランとして詳細なプロジェクトに落とし込み、責任者と予算をつき、期日を設けて進めている。「経営資源の確保」では、既存支援業務の拡充と新規事業の開発を図るために「人材確保と育成を注力項目に定めた。新卒採用に積極的に取り組む。20年4月には8人の高卒社員が入社。基礎研修制度を確立し、ビジネスマナーをはじめ、Microsoft研修やCAD研修など人材育成制度を構築した。今後は実務経験を積んで30年度までに新卒者30人を目標とする。同時に第2新卒・中途社員の採用を強化し、30代を中心に中途社員を確保するとともに、社員育成のためにシニア人材の採用も予定している。働き方改革も積極的に推進。新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ、テレワーク可能な環境を整備した。ウェビナーの推進やタブレットの配布、パソコン機器の整備など時代に適した多様な働き方に対応している。こうした会社を10年、20年支える社員の育成やデジタル化を進めることで、業務に携わる人材不足と高齢化に対応している。引き続き「技術とサービスをもって、誠実に事にあたり、地域社会並びに国土の発展に貢献する」という企業理念の実現を図る。